

地球にECO(いーご)としよう



省エネグループ通信



ローカルからグローバルへー川崎市環境行政を振り返ってー

NPO 法人 産業・環境創造リエゾンセンター 顧問 瀧田 浩

・市の行政で本格的に環境問題に取り組むことになったのは、1990年4月当時の清掃局企画課に異動になってからです。このころから、「産業公害」に代わって自動車排ガスによる大気汚染や生活排水による水質汚濁そして家庭系廃棄物の急増などの「生活公害」問題が顕在化してきます。あまりのごみ量の増加により計画していた焼却場の改修が困難となり、多額の補助金を国庫に返す事態となりました。激怒した新市長は、市民に分別に協力してもらうため6月「ごみ非常事態宣言」を発します。「分ければ資源」の始まりでした。

・1994年川崎市は市制70周年を迎え、1年間を通して市民、事業者、行政の連携、協働をスローガンに160の記念事業が行われました。「地球市民」の言葉もこのときから使われました。南北市民の絆を深めるため、川崎の母なる川「多摩川」との関わりが深い30団体を超える市民活動グループの方達と1年間イベントを実施しました。参加された方々のこの成果を次に繋げたいとの熱い思いから、ヨーロッパ発祥の自然と人との係わりを丸ごと野外博物館にする「多摩川エコミュージアム構想」が生まれます。その後、国土交通省の協力により1999年4月「ニヶ領せせらぎ館」(多摩区宿河原)が誕生し多彩な市民活動がスタートしました。

・90年代後半は、バブルが弾ける中で臨海部の大規模立地企業は生き残りをかけて生産の縮小や他地域への機能移転など経営の合理化に努めていました。その結果多くの遊休地が発生し、川崎市としても雇用と税収の面から手をこまねいていられなくなり、生まれたのが臨海部企業の不要になった

資源を域内でお互いに有効利用することで、経営にも環境にも貢献する「資源循環構想」で、1997年7月全国で最初の「第1次エコタウン地域」に認証されました。以後、各企業の全国に先駆けた取り組みにより、市民の関心だけでなく海外からも多くの人が視察に訪れるなど、臨海部のイメージの向上に大きく貢献しています。

・2010年4月「川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例」が制定、施行されました。それに先立ち省エネグループの皆さんの活動等に加え「CC川崎エコ会議」の発足や「川崎国際環境技術展」の開催、「低CO2川崎パイロットブランド」の創設など全国の先進的モデルとなる取り組みがスタートしました。なかでも臨海部企業にとり「低CO2ブランド」は「製造過程でのCO2の削減とそこで培われた環境技術による貢献」を進める上で、川崎市の産業構造の特徴を活かした取り組みと言えます。臨海部は多様なエネルギー供給基地でもあります。次の時代をにらんで、水素混合発電への挑戦も始まっています。

・今年11月から12月にかけてパリでCOP21が開催されます。我が国は2030年までに2013年比26%削減を目標に会議に臨もうとしています。早々と環境NGOから3つの「化石賞」(Fossil of Day Award)を同時に受賞しました。削減目標の低さに加えて、途上国に石炭火力発電所を輸出したり資金の融資をしていることなどの理由によることです。川崎市は、「市民自治」のもと世界に誇れる環境対策を実施してきた自治体です。ぜひCOP21の会場でPRL、日本の本当の姿をアピールしてもらいたいと思います。(元川崎市環境局長)

出前授業～新たに火力発電模型～

2015年度も、6月5日の出前に始まり市内各学校から、省エネグループへ出前授業の依頼が入っています。メンバー一同、今年も張り切って分かりやすい講義に努める決意をして新年度に臨みました。

最初の授業は、「地球温暖化とは？」の内容で、子ども達も興味津々、真剣に耳を傾けてくれました。温暖化は何故起こるのか、その仕組みは？、二酸化炭素もあらゆるところから出ているが、温暖化の要因の二酸化炭素は、化石燃料由来のものであること、それは私たちの生活に密接に関係していることを知る。そして、今地球で起こっている現象と将来への影響を理解し、自分たちが何をすべきなのかの課題を見つけて、調べ授業に取り組み、自分で取り組めるエコへと繋げて行ってもらうキッカケ作りの情報を提供する内容にしています。講義だけでは、集中力は途切れてしまうので、体験を取り入れ、体験することで更に講義の内容をより理解し行動に移してもらう組み立てにしています。

この他に「節電にみんなで取り組もう」「はっぱはえらい」のプログラムのオファーも来ており、先生や子どもたちからは、良く分かったとの感想が出ています。

体験用には、企業との協働でTD社より「火力発電模型」を借用でき、出前授業時の体験内容を充実させることが出来るようになりました。実際に稼働させることによって、仕組みや、二酸化炭素が発生する事実を見聞きし、理解を深めてもらっています。授業後のアンケートには、節電・節水の大切さ、ゴミの削減などたくさんの取り組みが書いてあり、授業の効果を実感しています。



火力発電模型

イベント：見て！触れて！感じて！ シリーズは5年目になりました。

今年も20ヶ所ほどのイベントが予定されており、これまでは9ヶ所のイベントに参加しました。

今年からは定番の手回し発電体験、燃料電池模型展示に加え、直接子どもたちの手による“クリップモーターをつくろう”“身近なもので電池をつくろう”“はっぱのはたらきを見てみよう”など子どもも大人も楽しみながらいろいろ学べる工作や実践の企画を取り入れています。これらの工作体験では子どもたちが成果を出すまで熱心に取り組むすがたが印象的です。

そのほかあらたな試みとして3月のお彼岸の日には早野聖地霊園公園で“ソーラークッカー”を使っての甘酒づくりを行いました。あいにくの曇りがちな天候だったため、十分な結果は得られませんでした。太陽エネルギーを周知する効果はあったと思います。



“クリップモーターをつくろう”の取組み情景



“身近なもので電池をつくろう”の取組み情景

エコライフ:みなさんはこの夏の酷暑にどう対処され、乗り切られたでしょう

今年のエコライフ・チャレンジには夏期に24校(生徒数2,232名)、冬期に5校(生徒数639名)とほぼ前年並みの応募がありました。

今夏も各地で連日のように猛暑日、熱帯夜が続き熱中症を病んだ人も過去最高を記録しています。また、地球温暖化が一因と云われている巨大台風の発生や局地的短時間豪雨などが頻繁に起こっています。年々厳しさを増す環境の中で各ご家庭ではどのように対処し、乗り切られたのでしょうか。今年の結果を次号で報告したいと思います。

これまでのキャンペーンで保護者の方々から寄せられたご意見・感想のいくつかを紹介しておきましょう。

保護者の方々のご意見・感想

- ・日常からエコライフには心掛けて暮らしていますが、このように改めて具体的にメニューを掲げていただくとさらに頑張ろう!と家族でチャレンジしました。暑い夏も扇風機の活用などで乗り切れると思いました。もちろん熱中症には気をつけていますが…。温暖化の一因であるヒートアイランド現象もエアコンにすぐに頼らない!設定温度を調整する!などもう少し皆の考え方を直せば改善するのではと思います。また、3・11後は各企業、各家庭で電力を抑えていましたが、今は3・11前のように戻っています。若干の不便はあっても「温暖化ストップ」「原子力発電ストップ」に役立つなら、電力などの使用を抑えた生活レベルにしても良いと思います。これからも微力ながらエコライフに励みたいと思います。
- ・普段の生活習慣を家族全員で見直す良いきっかけとなりました。今後も継続して行くよう頑張りたいと存じます。
- ・節電、資源をムダにせず、有効に使うことのキッカケとしては良い取り組みだと思います。温暖化を止めるには、エネルギー発生を抑える=産業・経済の不活化につながるお恐れがある=など、様々な角度からエコについて学べればと思います。
- ・今の子ども達が大人になった時、住み心地の良い環境にするために私たち大人も一緒に勉強していき、実践しなければならぬと思いました。

今年も夏休み自由研究 大盛況!

猛暑を迎えた今夏、恒例の川崎市地球温暖化防止活動推進センター主催の夏休み自由研究講座が開催されました。我が省エネグループも7月26日に9人のメンバーが「燃料電池を作ろう」のテーマで参加しました。

定員20名に対して75人の応募という3.5倍の抽選をひきあてた小学校3年生から6年生までの子どもたちが保護者と共に参加してくれました。

今年から燃料電池をより簡潔に理解してもらうため、工作に入る前に15分間プレゼンテーションを実施しました。その説明資料は幼い子供たちにもわかるように推敲を重ね、又、表現も工夫を重ねて作成しました。この説明の後、燃料電池の模型を使った説明はより理解を深めました。

手回し発電などの体験コーナーで、電気の作り方の仕組みと省エネの必要性を親子ともども理解してもらった上で、いよいよ燃料電池の工作に入りま

した。水の電気分解で発生した水素と酸素を目視で観察した後、そのエネルギーを利用してオルゴールの鳴り響く音色、そして2人1組になり燃料電池を直列につないでLEDが瞬間的に点灯する模様親子が感嘆の声をあげていました。

常に時代を先取りし、それを先取り講座に取り入れ間髪いれず実施していくという省エネグループの真骨頂をいかに発揮した場でもありました。



「なりゆき」という言葉をご存知だろうか。私事になるが、某出版社で編集一筋に約 40 年を過ごした。編集の世界ではこの「なりゆき」という言葉がよく使われた。

写真のトリミングなどで「左右 30 ミリ×天地なりゆき」などと使う。基軸だけを指示し、あとは相手に下駄を預けてしまうわけだ。昔の印刷所には大ベテランの職人さんが多く、細かな指定をしなくても、問題なくうまく行く。

10年前会社人を卒業し、さて何をやろうかと考えて、たどり着いたのが無農薬・有機栽培である。厚木の隣・愛川町で、畝の立て方から肥料の与え方、棚の組み方など、地元のご隠居から手取り足取り教えていただいた。

そのご隠居の言葉。「オラァ、五十年百姓をやってるけんどよオ、テェしたことねェよ。たった五十回しか経験がネェんだから」。自然と向き合ってきた人の至言だろう。

これと併行して、ヤマユリの保存運動に加わった。



菜園仲間には「なにかい、今度はユリの根を喰うのかい」と揶揄されたが、始めてみるとその奥深さに圧倒された。9年目を迎えたが、こうすればうまく行くという回答が見つからないのである。

物の本には、ヤマユリの適地は半日蔭の斜面で、水はけのいい痩せ地だとある。そうした場所を選び、せっせと球根を植えてみるが、うまく行く場合と全滅の場合とがある。これと真逆の日差しギンギンの平坦地でも、立派な自生ヤマユリが顔を出していたりする。

“何なんだこれは!?”と思うこと多々である。だが待てよ、これこそが自然と向き合うということなのかもしれない。そして、偉大な自然には「なりゆき」でお任せしようではないかと思っている今日この頃であります。

と、ここまで書いてきて、はてこの原稿のテーマは何だっけ？ ヘッ！”私のエコ体験”ぜ～んぜん違うじゃん。

賢明なる読者のみなさん、平にご容赦を。どうか「なりゆき」でご理解ください。



—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かっこよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先
川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内
TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350
E-mail : office@kwccca.com
ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者：省エネグループ代表 八木洋一

